京都市環境審議会
令和８年度第１回 環境基本計画評価検討部会　会議録

日　時　　令和８年８月２７日（木）　午後１０時００分～午前１１時５５分
場　所　　京都市役所本庁舎１階　環境政策局会議室（環境総務課執務室内）
※オンラインとのハイブリッド
出席者　　大久保委員、尾崎委員、桜井委員、実重委員、吉積委員◆（五十音順）
（参考：欠席者　杉田委員、千葉委員、細川委員）
◆：オンライン出席

１　開　会

松下環境企画部長から挨拶

２　議　題

○京都市環境基本計画の進捗状況について

・　事務局からの資料１についての説明を踏まえ、意見交換。

（桜井委員）
環境への関心度が下がったことが論点となっている。環境への関心度が第２章に位置付けられているが、第３章以降の進捗に記載していない理由は何か。

（事務局）
環境への関心度そのものを評価するというより、基礎的な情報として押さえているため第２章に記載している。

（桜井委員）
環境への関心度が減ってきていることは大きな問題だが、それをどう解釈し、どうレポートで見せるのかが難しい。例えば、全国的な傾向なのか京都市だけの結果なのかが分かると、市民が客観的に結果を見ることができるのではないか。原因を特定することは難しいと思うが、物価高の問題などで環境問題の優先順位が下がっているのかもしれない。また、2020 年に特別に関心度が高かったのであれば、ＳＤＧｓの波が落ち着いてきたということかもしれない。一方、マイバッグの取組では高い評価となっているなど、行動ベースで見るとよい結果も散見される。

（事務局）
御指摘のとおり、環境問題の優先度が下がっているのではないかと実感している。全国の傾向については、今後、調べたい。

（尾崎委員）
主婦の立場として、マイバックやマイボトルについてはほとんどの人は実践していると実感している。食品に関する取組は関心が高い。しかし、地球環境や河川の問題になると実感がない。環境学習の機会もあるが、ごみ問題を取り上げることが多く、交通や温暖化については実感がわかないものとなっている。主婦の目線でいうとそうした冊子を見る機会や学ぶ機会も少ない。

（事務局）
環境学習の実感度（主観的指標）も後退している。手立てとして、何をすれば良いのか、どうして必要なのかを伝えることが必要であると考えている。

（吉積委員）
２点質問がある。１点目は、資料 39 ページ以降について、食品ロスの排出量は客観的指標として全体の目標値と実績値が示され、その後にそれぞれの施策が説明されている。今後、施策の効果を分析・評価していく必要があると思うが、少なくとも家庭系・事業系別の数値を示した上で施策を評価する必要はないか。２点目は、ごみ焼却量や環境保全活動プログラムなど、既に 2030 年の目標を達成しているものについて、目標値を見直す必要性もあると思うがどうか。

（事務局）
既に達成できている目標については、新計画では分野別計画と連動し、より高い目標を設定している。2030 年度の目標として、ごみ焼却量については 30 万トン、食品ロスは 4 万トンという目標を掲げている。より細かいデータについては分野別計画で把握し、年次の確認を実施している。

（実重委員）
個人的な実感としては、環境に関心がある方は増えているのではないかとも思っている。アンケートでの関心度の低下の理由としては、世界情勢や経済情勢が影響しているのではないか。これは京都市だけの問題ではない。この後の議題である主体別指針の市民向けも拝見したが、環境というと大きな問題として捉えられてしまうが、気軽についでにできることなども環境活動としてあるので、あまり環境活動と思わずに取り組んでいることもあると思う。環境という言葉にするのではなく、できることから行うということが市民向けに必要ではないか。アンケートの結果からも気候が暑くなっているという実感があるが、取組で改善できるのか、取り組んでも効果がでないのではないかという声もある。2050 年を見据え、世界的な情勢を考えると地球温暖化は防ぐしかない。生物多様性に関わる京の生きもの・文化協働再生プロジェクトについては私自身も参加した。市内の自然共生サイトの認定は 13 箇所で全国的にみても多いのではないか。京都環境賞の応募件数も多数ある

ので、関心が増えているのではないかと考えられる。また、将来世代のことも大事である。課題を考え、今何ができるのか、分かっていただけるようにする必要がある。

（事務局）
地球温暖化対策については、取り組んでも効果がないのではないかというような、疑念や不安があるのではないかと考えている。そのため、このような行動にはこういった効果があるということを伝えていく必要がある。自然共生サイトについては 13 箇所で認定されており、市町村の中で一番多い。自然共生サイトの認定数・面積については、新計画で指標として取り上げている。京都環境賞は長年続いており、昨年度は動画を作成し、情報発信もしている。今後は、将来世代を見据えることも重要なので、新計画でも将来世代を踏まえた行動が必要ということを記載している。

（大久保委員）
関心度合いの低下については、経済的な影響もあると考えられる。一方でエネルギー安全保障の問題も考慮すると、エネルギー費用の節約にも関連する。アンケートの分析では「わからない」の中身も分析いただいている点はこの後の議論にもつながる。環境レポートの中でより詳しい情報が知りたい方に向けてはＱＲコードを掲載していただき、本計画内のＤＸの推進も考慮していただいている。また、特徴的な部分として、資料 58 ページに掲載のある「ごみ減量エコバスツアー」の開催が 46 回開催されているのは他都市と比較しても多いと思う。

〇京都市環境基本計画の進捗状況について

・　事務局からの資料２、資料３－１、３－２、３－３についての説明を踏まえ、意見交換。

【資料２について】

（大久保委員）
２の環境教育・学習基本指針の見直しについて、一方的に学習の機会を与えるだけでなく、なぜできないのかという意見を集め、反映できるプロセスも必要ではないか。私の行っている講義でもプラスチックごみの分別について話を聞くと、汚れているものを水洗いするよりは燃えるごみとして捨てる方がよいという考えで、分別しないケースもある。

（実重委員）
土地種類別の機能のシナジー拡大については、頭では分かっていても内容の見える化はなかなかされていないと思うので、参考になると思う。

（桜井委員）
環境教育・学習基本指針について、ポジティブなものを推進していこうという点については共感する。アンケートでは環境教育の機会について 10 ポイントも減っているが、本当に１年で減っているわけではないと思う。本指針の見直しで、これがどう改善するかを見たい。また、本当に環境学習の機会がないわけではなく、単純に知られていなかったり、関心がなかったりするということもあるため、アピール方法も重要である。関心がない層がどのような属性か、どのようなツールを普段使っているのか把握して、ではどのように伝えるのかなどを考えたときに、若者にはＳＮＳを使うのが現実的などとなってくる。

（事務局）
環境教育・学習基本指針について、現行のものはライフステージの面で学習者の属性を意識しながら策定した。上から目線になってしまわないよう、学習者の目線に立ち、関心がない層が学びたくなるように、ひとりひとりの考えに寄り添うことが必要で、それらを踏まえ検討していきたい。主体別指針については切り口を変えて作ることとしている。それらを踏まえ、環境教育・学習基本指針をどうするか検討していく。

（尾崎委員）
なんらかの団体に入っている方は学習機会があるので考える機会があるが、一般の主婦はなかなか機会がない。課題解決に向けて具体的な取組を「見える化」しても分かってもらえるだろうか。また、分かっているが学習に踏み込めないという立場だと、なかなか難しいのではないか。

（事務局）
具体的行動をわかりやすく伝えたうえで、なぜそうなっているのかという部分に踏み込んでもらうことが重要である。学び手にとっての課題に寄り添う必要があり、行政の言葉ではなく、伝え方も変える必要があると認識している。

（大久保委員）
伝え方としては、健康面での取組として階段を上がる際のカロリー表示などがある。また、悲観的になり、取り組んでも効果がでないと諦めてしまう人もいるのではないかという指摘があったが、そうした短期主義になってしまう方をいかに長期主義にしていくかという視点が必要である。地球温暖化問題ではオーバーシュート（平均気温の上昇の抑制目標の超過）してしまう見通しもあるが、今の時期に取り組めばまだ取り戻せるということを訴えていく必要がある。

（吉積委員）
方向性としてはチャレンジングなことだと思う。様々な情報があるなか、整理したデータをどのように評価し行動変容に繋げていけるのか、その仕組みをどのように戦略的に作っ

ていくのか考慮しないと、可視化しただけで終了してしまう。出口を見据えて整理する必要がある。

（事務局）
可視化も重要であるが、受け取った情報でどう行動変容してもらうのか、その仕組みも意識して策定していきたい。

（大久保委員）
以前、環境審議会では、集まった方々との意見交換の場があるとよいという意見もあった。土地種類別の機能の整理については、生物多様性に資するコリドー（緑の回廊）を作っていく際に自然共生サイトとしての可能性がある場所と繋げていくことなども考えられる。シナジーの拡大よりトレードオフの最小化は難易度が高い。地域ごとの特性を分析し掲載した例は他都市でもあるが、それをトレードオフとシナジーの双方の観点から整理することは、新しく面白い取組である。

【資料３−１、３−２、３−３について】

（桜井委員）
市民向けの指針について、どこで配布する予定か。

（事務局）
イベントなどの機会で共有し、率直に意見を聞くことからがスタートだと思う。皆さんの反応を確認したい。

（桜井委員）
指針を通じて取り組んだ結果が集まった際には、ショート動画などでその取組を寄せてもらい、リアクションなどの動画集を作ることで広まるのではないか。大学生に対する取組ではすでに進められていることだと思うが、発信方法も一緒に考えていくことがよい。京都環境賞もあるため、賞を受賞された戸活動との繋がりを活かすことで相乗効果が出てくるのではないか。

（事務局）
発信の観点はこれからの検討事項であるが、取り組んでみたことという観点も含めて検討したい。

（大久保委員）
参加した方が主体的にリアクションできるとよい。京都環境賞との相乗効果も重要であり、京都らしいものを強調して入れていくと身近になる。別の取組もあるという手段を複数示すこともよい。

（吉積委員）
具体的行動をどこまで示すのかその取捨選択が難しい。限られた紙面で何を載せるべきなのか検討することが重要。具体的に何を行動すべきか、そのために何を載せるのか、どこまで細かい行動を載せるのか。素案ではイベントへの参加や再エネ導入などの大きな取組もあるが、てまえどりなど細かい取組もあり、その選択は難しいと思うが、現在の見解があれば伺いたい。

（事務局）
類似の事例として、地球温暖化対策室の 2050 MAGAZINE ではアクションリストを 70 ほど掲げている。一方で今回の指針では、数は限定し、粒感は大掴みにして理解してもらえるようにすることを考えている。意見をいただきながら整理し、常にアップデートしていく考えもある。

（吉積委員）
効果も見ながらアップデートしていくことが大事である。１年に１回、または２年に１回など確認の頻度は別として、どういう示し方が効果的であったかを評価しながらアップデートしていくことが大事だと思う。

（尾崎委員）
動機づけの項目を掲載されているが、これに対して呼びかけと具体的行動をこのように書いていただけると一般市民にとって分かりやすい。自分なりのアップデートもできると思う。

（事務局）
分かりやすさの点では、イラストも使って示していきたい。

（実重委員）
市民向けの指針はすごく面白い内容だと思う。また類似するアプローチになると思うが、滞在者向けが別途あるのはよい。事業者向けの指針については、大手企業と中小企業とではアプローチの仕方が異なるが、こうしたものを受け取ったら企業としても考えるのではないか。全市横断的な話になり、基本計画や個別計画にも関わってくる。

（事務局）
事業者の指針は営業ツールになるのではないかと考えている。事業者にどのようなニーズがあり、どこまで取り組まれているのか分かり、次の段階として何が必要なのか示せる。

（大久保委員）
主体を分けたことに加え、ポイントを変えている点が特徴である。事業者であればリスクとチャンス、滞在者は暮らしと慣習との違いを整理している。住んでいる地域との慣習の違いとして、散乱ごみの問題は街にごみ箱が少ないという意見もあるが、なぜごみ箱が少ないのか、その理由を示すなどして伝えることが必要ではないか。環境レポートの総括も踏まえ、どのように進めていくのか、新たな施策が必要であれば新たな予算要求を行っていくことも考えられる。

（桜井委員）
市民向けの指針について、生物多様性保全に関するアプローチの行動が少ないようにも思う。素案では緑化やメダカの放流の抑制に留まっている。気軽にできることとして、自然観察やバードウォッチングなどもあるので、生物多様性の具体的行動のひとつとして示す案もある。

（事務局）
生物多様性を管轄している部署にもヒアリングしながら考えていきたい。生物を増やす、生態系を豊かにするといった行動を行える市民は必ずしも多くないため、気軽にできることから検討したい。

（大久保委員）
外来種が多いというアンケート結果もあった。ブラックバスだけでなく、メダカも外来種があるなども工夫して伝えていくことも大事であるように、何を見せていくのかも論点である。住宅の庭に木があることでそれらが繋がって鳥が移動できる経路になるという、住宅メーカーによる「５本の樹」の取組などもある。

（実重委員）
滞在者向けの指針については、京都の観光施策にも関わるので、協力した発信も重要である。

（大久保委員）
バスの混雑対策についても、京都市でやっている取組があったのように思うがどうか。例えばバス停の列緩和のために、荷物が少ない観光客には少し歩いて地下鉄に乗る別ルートを案内することで歩行の推進にも繋がる。

（事務局）
京都市の観光施策としては、まず地下鉄に乗ってもらい、次に市バスを利用してもらうという順序を推奨している。

（尾崎委員）
皆さんに周知するときには、簡潔にわかりやすく、理解できる言葉で、具体的な内容を示していただくことが重要である。

（大久保委員）
内容としてはシンボリックなものがあるとわかりやすくなる。

（吉積委員）
清掃活動など普段当たり前に行なっていることを追加してもよい。打ち水などの伝統的な習慣を取り入れることも考えられる。

（大久保委員）
京都で当たり前に行なっているけど、実はエコな取組などを示すことができると市民にとっても、滞在者にとってもよい。また、指針の策定など、スケジュールを示していただきながら、どのような形で取り組んでいくのか、審議会本会の方でも示していただけるとよい。

３　閉　会

（以　上）